

工学系学部における自己決定学習の促進要因に関する実証的研究

藤境, 智一

<https://hdl.handle.net/2324/4060257>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (教育学), 論文博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

氏 名	藤 埴 智 一				
論 文 名	工学系学部における自己決定学習の促進要因に関する実証的研究				
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	吉 本 圭 一	
	副 査	九州大学	教授	元 兼 正 浩	
	副 査	九州大学	教授	神 野 達 夫	
	副 査	九州大学	准教授	木 村 拓 也	
	副 査	国立教育政策研究所	名誉所員	塚 原 修 一	

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、工学系学部における学生の自己決定学習を促進する指導の特性について解明している。第1の特徴は、近年の技術環境に適合したエンジニア育成という先進国共通の課題を、高等教育の教育社会学的研究の課題として成立させた点にある。第2の特徴は、学生調査によって収集したデータを用いて、この課題を実証的に解明した点にある。第3の特徴は、自己決定学習への着目にある。量的研究では、従属変数に「効果のある自己決定学習」を設定した。彼ら彼女らは自主的な課題探求学習の結果、高い学習到達度に至ったと考えられる、「成長する学生たち」であり、その学習経験を分析したという点が、本論文最大の特徴である。分析結果は、講義や研究室教育よりも、実験が重要な影響を与えていることを示している。本論文は、こうした工学系学部教育特有の重要な実態の把握に基づき、学習方法論へアプローチする高等教育研究の新領域を開拓し、効果的な教育提言をおこなうものともなっている。よって、本論文は博士（教育学）の学位に値するものと認める。